

第191回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

1 開催年月日 平成25年9月5日(木) 11:00~12:00

2 開催場所 宇都宮グランドホテル

3 委員の出席 委員総数 7人
出席委員数 7人

(1) 出席委員の氏名 早川 富美子(委員長)
片山 貴之(副委員長)
青木 敬信
古磯 勝子
片岡 真理
島田 恭子
長 茂男

(2) 放送事業者側出席者 大森 敏秋(代表取締役社長)
佐藤 望(放送部長)
古寺 雄史(放送部課長)

4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

8月18日、夜8時から放送した特別番組「火の海になった宇都宮」について、
試聴と意見交換を行った。

事業者

終戦間近の1945年7月12日におきた「宇都宮空襲」。

今も宇都宮に残るその爪痕を辿り、また、当時の様子を体験者から話を伺いながら、
戦争を知らない世代へ「宇都宮の戦争の歴史」を伝え、改めて戦争について考えようという
内容の特別番組を放送しました。

【 番 組 の 試 聴 】

委員：

終戦の日がある8月放送の特別番組として企画したことに評価。
番組を通して、戦争について改めて考えるきっかけになったと思う。

委員：

これまでに戦争をテーマにした番組を放送したことは？

事業者：

何度か特別放送の形で放送をしたことがあったが、宇都宮空襲にテーマを絞って番組としたのは初めての試みだった。

委員：

私は、「宇都宮空襲」があったことを知らなかった。それだけに、宇都宮平和記念館を作る会の2人のお話は、当時の様子を知ることが出来る非常に貴重な話で、興味を持って聞くことが出来た。出来れば、番組の中で記念館の創設への熱意をもっと聞き出して伝えてほしいと思った。

委員：

番組で使われていた音楽も、番組の構成から、とてもよく考えられていた。

委員：

メインのナレーションをつとめた佐藤アナウンサーは、情報を的確に適切な言葉で伝えていた。一方、リポーターの中野さんは、ほんわかした雰囲気でもっとおっとりとした話し方だったので、親しみを感じられた。
そのためか、このような番組のテーマでも、番組全体を通しては、あまり重く感じられずに聴くことが出来た。
喋り手の2人の役割分担が明確でギャップがあったことで、番組全体としてはうまくバランスを保つことが出来たのではないかと。

委員：

大塚さんへのインタビューの中で、中野さんの言い回しに配慮の欠ける表現があったり、また、呼び名が名字になったり名前になったりと一定ではなかったことが気になった。

委員：

街頭でのインタビューでは、若い世代ばかりに質問をし、またその回答も同じものばかりで、世代や話の中身などのバランスにも、もっと配慮をしてほしかった。

委員：

話の内容に聞き入っていた直後に、比較的大きな音量で曲がかかった場面があった。突然で、ドキッとして、聞き心地がよくなかった。

委員：

宇都宮空襲で、私の先祖も犠牲になっている。

街頭インタビューを聞いていて、身近に戦争体験を伝える人が少なくなっているのか、若い世代の多くは、戦争に対して無関心な人が多いのかなと感じられた。

このような番組企画を通して、これからの世代にも、宇都宮での戦争の歴史や、戦争の悲惨さを伝え、きちんと考えてもらうきっかけになればいいと改めて思った。

今後も、この時期に放送を続けて欲しい番組テーマである。

(以上)

(2) その他

なし

(3) 次回開催日程について

次回の開催を10月3日(木)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日

なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

(1) 放送 9月29日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内

(2) 書面 本社事務所に備え置き

(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項

なし